

marie claire

marieclairejapon.com

24th September,
2026
No.213

Fumi
Nikaido

Into Autumn

深まる秋、心を満たすもの

美を極める
オートクチュール&ハイジュエリー
最新ラグジュアリークルーズ
旅に連れていきたい本

本サービスを利用した営利目的の活動行為、
あるいは本サービスを通じて入手した情報を
複製、販売、出版その他
私的利用の範囲を超えて使用する行為の
一切を禁止します。

Contents



- 7 Welcome to marie claire /
- 8 Cover Story: Fumi Nikaido /
- 11 Style Picks: Power Red /
- 12 Neo-Nostalgia /
- 19 CHOPARD /
- 20 2026-27 FW
Haute Couture Collection /
- 23 Van Cleef & Arpels /
- 24 The New High Jewelry /
- 26 ROLEX /
- 30 Style Picks: Brooch Magic /
- 31 Beauty: Beauty on Board /
- 32 Beauty: Skin Longevity /
- 34 Travel /
- 38 WAKO /
- 40 BOOK /
- 42 Food: ITSUKIRI /
- 43 MESSIKA, shop list

cover
photo: Teruo Horikoshi<TRON>
hair & make-up: Aiko Tokashiki
styling: Eri Takayama
direction: Shiho Amano
dress: PRADA

Welcome to marie claire vol.213

昨年、初めてクルーズの旅を経験しました。東京を出発し、大阪、韓国・済州島、九州と巡る7日間のツアー。普段、国内外の出張が多いのですが、船で行くことはなかなかありませんから高揚感はまた格別なものでした。

海が一望できるお部屋で荷解きをしたら、あとはステイを楽しむのみ。荷物の移動や交通手配から解放され、寄港地での観光と船内でのステイがシームレスなのが魅力です。通常、移動時間はおとなしく座っていなければなりません、船旅であればその時間さえもアクティビティとなります。私が乗船したのは大型の客船で、複数のレストランやバー、ラグジュアリーブランドのブティック、プール、シアター、バスケットコートなど各種施設が揃い、毎日さまざまな過ごし方ができて退屈知らず。カクテルタイムにはドレスアップしてダンスイベントに繰り出したり、漆黒の海を眺めながら乾杯をしたりと、非日常をたっぷり味わうことができました。

世界のクルーズ市場を見てみると、急速な拡大傾向にあります。クルーズライン国際協会 (CLIA) が公表している資料によれば、2025年の世界海洋クルーズの旅客数は年間3720万人に達し、過去最高を記録。さらに注目すべきは、乗客の約

3分の1を40歳未満が占めているということです。SNSでは“CruiseLife”というようなハッシュタグで旅の様子が日常的に拡散され、“タイパ”や“コスパ”を重視する層には3、4日間で非日常を堪能できると人気を博しているようです。環境への意識が高い世代にとって、グリーンシップと呼ばれる温室効果ガスの排出を減らす環境対応船の導入が進んできていることも追い風となっているのかもしれませんが。

日本の状況はどうでしょうか。国土交通省海事局のデータによれば、昨年の日本人のクルーズ人口は24万人を超え、外国籍のクルーズ船が日本に寄港する延べ回数も過去最高を更新したとか。ラグジュアリーホテルによるクルーズ船のローンチも続いており、ウェルネスやデジタルデトックスなど心身ともに自分を整えられるプログラムなども話題です。海と一体化するプライベート空間で、自分を取り戻すことを目的とするようなハイエンドトリップに注目が集まりそうです。

2026年9月24日



阿部はるひ
Haruhi Abe, marie claire 編集長

marie claire 2026年9月24日発行 第15巻 第9号 (通巻213号)

発行人 Publisher:
安部順一 Junichi Abe

編集長 Editor in Chief:
阿部はるひ Haruhi Abe

Executive Advisor, Global Affairs:
田居克人 Katsuto Tai

アートディレクター Art Director:
木村裕治 Yuji Kimura

ビジネス スペシャリスト Business Specialist:
斉賀明宏 Akihiro Saiga

副編集長 Deputy editor:
大林理子 Riko Obayashi

編集部 Editorial Team:
高波麻奈美 Manami Takanami
岩崎芽衣 Mei Iwasaki

パリ特派員 Paris Correspondent:
須山佳子 Keiko Suyama

デザイン Design:
木村裕治 Yuji Kimura
佐藤 幹 Miki Sato

発行 Publication:
読売新聞東京本社
〒100-8055 東京都千代田区大手町1-7-1
tel: 03-3216-8815
THE YOMIURI SHIMBUN

印刷 Printing:
共同印刷
KYODO PRINTING CO.,LTD.

本誌掲載の記事・写真、イラストの無断転載を禁じます。
※本紙に掲載されている商品の価格は
特記されている場合をのぞき、すべて税込みです。

MARIE CLAIRE INTERNATIONAL

Executive Director:
Jean de Boisdeffre
International Deputy &
Finance Director:
Felix Droissart
International Brand Director:
Nicia Rodwell
Chief Content Officer:
Galia Loupan
Chief Digital Officer:
David Jullien

International Fashion &
Beauty Chief Editor:
Florence Deladrière
Senior International Brand Manager:
Céline Hananel
International Editorial Coordinator:
Marie Bazin
Global Partnerships / Media solutions:
Magali Riboud
(Agence Riboud)

Foreign right Commercial:
Thibaud le Pailh
Licensing Manager:
Stephanie Ertzbischoff
Iconographer: Photo library:
Isabelle Teboul

©MARIE CLAIRE ALBUM 2026
©THE YOMIURI SHIMBUN 2026



演じることで思いを寄せ続ける

二階堂ふみが向き合う戦争の記憶

Fumi Nikaido

話題作で好演し、近年ではアメリカのドラマシリーズ「SHOGUN 将軍」にも出演するなど、国際的にも活躍する俳優・二階堂ふみ。最新出演映画『わたしの知らない子どもたち』が10月16日に公開される。西川美和監督が、戦後の東京を生き抜く戦争孤児を描いた作品だ。企画のスタートは約6年前。丹念に書き上げられた脚本に、二階堂は強く心を動かされたという。

photo: Teruo Horikoshi (TRON)
hair & make-up: Aiko Tokashiki
styling: Eri Takayama
interview & text: Saya Tsukahara
direction: Shino Amano

『わたしの知らない子どもたち』の主人公は、12歳の少女・琴子。戦争で家族を失い、生き延びるために少年として行動する。二階堂が演じたのは、戦前、琴子の担任教師だった曾根文美子だ。戦後の混乱期、喪失と貧しさに苦しみながら琴子の行方を追う。軍国主義教育に加担したことから、被害者でもあり加害者でもある立場に葛藤を抱える。西川監督が本作で描くのは、多くは語られてこなかった“名もなき”存在だ。

「語られてこなかったということは、声を上げられなかったり、声を奪われたりしてきたのだと思います。演じることで思いを寄せて、少しでも一緒に痛みを背負うことができたかと思いました」

自身は沖縄に生まれ、祖母が地上戦の激戦区だった糸満市で戦争を経験している。そのことを祖母は語りたがらなかった。

「私は母や祖母の妹からいろいろなことを聞きましたが、戦中や戦後の体験は祖母に大きな影響とトラウマを与えたと思います。戦時教育に疑問を持たなかったのかを尋ねた時には、一言、『そういう時代だったから』と。自分と同じように日常を過ごしていた人たちが戦争に巻き込まれていった。そのことへの思いが、この作品に参加する根底にあります。当事者の方々が背負った傷は計り知れない。思いを寄せ続けることが自分にできることなのかと思っています」

戦後81年が経ち、当事者の体験を聞く機会も失われつつある。

「以前、広島平和記念資料館に被爆再現人形という蠟人形があって、撤去するか否かの議論があがった時代がありました。私はどちらかというと、恐怖心を煽っても、戦争の悲惨さを伝えるうえで必要な展示ではないかと思ったのです。一方、作りものではとても再現できないというお声もあったそうで、当事者の方々はそういう重荷を抱えているのだと気づきました。映画もそれに並ぶことだと思いますが、過去に対する問いを持ち続けることはできるし、当事者ではないから描けることもあるかもしれない。演じる中で生まれてくる感情は真実なのだという思いを持って、伝えていきたいと思っています」

西川監督は広島県出身だ。若い頃は戦争の映画を作るとは思っていなかったと語る。

「広島、長崎、沖縄出身の作り手はしばしば求められると思いますが、以前はそれに反発に近い気持ちがありました。みんなが戦争体験者の子孫のはずなのに、なぜ局地的に、と。今回の作品を作り始めたのは、孤児たち一人ひとりかどんな人たちだったのか、調べたいと思ったことからでした。戦争を知らない世代が描くのは難しいとも感じたけれど、直に体験した世代の実感をわずかでも受け取ってきた私たちが『自分ごときが語るのはおこがましい』と思っていたら、若い人たちはどうやって自分の国の出来事を知るのだろう。だんだんそう思うようになり、覚悟が決まりました」(西川)

琴子を演じるのは小八重葵美。自身の希望で原爆ドームを訪ねるなど、学びを深めた。

「戦争について聞くと、怖いな、よくないな、と思っていました。でも、自分の国を守るためには戦うことも必要なかな、と思っていたんです。今回、演じたり、いろいろと勉強したりする中で、たくさんの方がとても大変な目に遭っていることを知って、気持ちが変わりました。今も世界のどこかでつらい思いをしている人がいて、助けたいけど……」(小八重)

二階堂が映画デビューを果たしたのも、小八重と同年代。役と真摯に向き合う小八重の姿に刺激を受けた。

「きつと彼女たちが、私たちが上の世代から受け継いできたバトンを受け取ってくれたんじゃないかなと感じました。平和とは、個として言葉を持ち、生きられる状態だと私は考えています。子どもが子どもらしくいられて、安心して過ごせる。心にも体にも栄養が行きわたる子どもが一人でも多い世界になってほしいと思います」

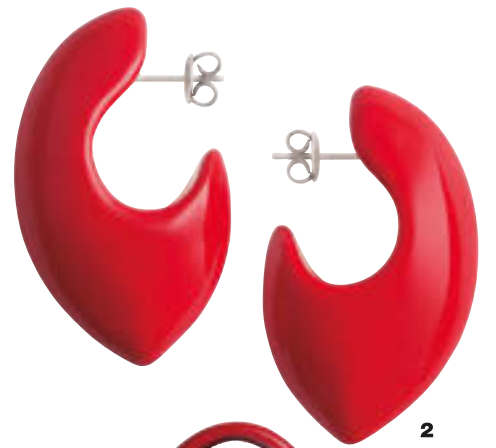
——
二階堂ふみ
1994年9月21日生まれ、沖縄県出身。
10代から俳優として活動し、映画『私の男』(2014)『リバーズ・エッジ』(2018)などで高い評価を得る。映画・ドラマの話題作に幅広く出演し、2020年にはNHK連続テレビ小説「エール」でヒロインを務めた。近年は「VIVANT」(2023、2026)「Eye Love You」(2024)などの話題作でも存在感を発揮。2024年には、米国のドラマシリーズ「SHOGUN 将軍」で「落葉の方」役を演じ、国内外で注目を集める。2026年は映画『開戦前夜』『わたしの知らない子どもたち』に出演。

〈Cover, P.8〉一見ミニマルながら、レイヤリングにより多面的な表情を演出するブラックドレスを纏って。色鮮やかなカラーブロックのストールが意外性のあるアクセントとなり、モダンさを引き立てる。ドレス[ストール付き] ¥1,210,000 ソックス ¥187,000 シューズ ¥308,000 [すべて予定価格] (すべてブラダ/ブラダ クライアントサービス)





〈右〉Fendi 流れるようなラインが美しい、シルクニットのロングスリッドレス。深く開いたVネックと華奢なショルダーストラップがセンシュアルなムードを演出。ドレス¥550,000 カラー¥184,800 シューズ¥243,100(すべてフェンディ/フェンディ ジャパン)



〈左〉Chanel トーンオントーンのハンドメイドブレードが輪郭を際立たせ、艶やかなエナメル加工のジュエルボタンがアクセントに。コート¥3,671,800 ピアス¥108,900 ブーツ、バッグ[ともに参考商品](すべてシャネル/シャネル カスタマー ケア センター)



Power Red

赤のエナジーを纏って秋をアップデート

ダークカラーが主流の今秋冬の中で、視線を奪う鮮烈な「レッド」がアクセントとして装いをフレッシュに刷新。パワーとエレガンスを宿す赤を味方につけ、今年の後半戦、スタイルも運氣もポジティブに加速させて。

styling: Natsumi Sato
text: Miyuki Kikuchi

1.Dior 柔らかなレッドのラムスキンが目を奪う、アイコン的な「J'Adior」のシューズ。メゾンを代表するシルエットに新たな感性を吹き込み、エレガンスと今のムードが軽やかに溶け合う一足。靴 [H3.5cm] ¥165,000 (ディオール/クリスチアン ディオール) **2.Bottega Veneta** 鳥のカギ爪を思わせる、独特の曲線を描く彫刻的なフォルムが印象的なピアス。ヴィヴィッドな発色と艶やかな質感が、耳元にアーティスティックな存在感をもたらす。ピアス「クロー」¥320,100 (ボッテガ・ヴェネタ/ボッテガ・ヴェネタ ジャパン) **3.Balenciaga** 艶のあるレッドがパワーを与える「Hourglass Avenue」。初期のバレンシアガ・クチュールに見られる、ボディのウエストを絞ったようなラインを想起させるデザインが目を引き。バッグ「HGアヴェニュー トップハンドルバッグ スモール」 [W24×H18×D10cm] ¥434,500 (バレンシアガ/バレンシアガ クライアントサービス) **4.Givenchy by Sarah Burton** 「バックトゥ フロント ジャケット」から着想を得た、構築的なニットドレス。象徴的なスラッシュディテールとアシンメトリーなラインがシャープな表情を添える。ドレス¥470,800 (ジバンシィ by サラ・バートン/ジバンシィ ジャパン) **5.Prada** 繊細なビーズや刺繍が華やきを添えるシューズ。シンプルなフォルムと緻密な手仕事のコントラストがモダンで個性豊かなエレガンスを描き出す。靴 [H5.5cm] ¥308,000 [参考色・予定価格] (プラダ/プラダ クライアントサービス) **6.Stella McCartney** アイコンバッグ「ファラベラ」が、躍動感あふれるロングフリンジを纏って登場。しなやかなヴィーガン素材を使用し、優美なギャザーシルエットが装いにドラマティックな余韻をもたらす。バッグ「ファラベラ」 [W38×H36×D10cm] ¥287,100 (ステラ マッカートニー/ステラ マッカートニー ジャパン) **7.Tom Ford** 鮮やかなルビーレッドが視線を誘う、上質なラムスキンのスエードスカート。端正なシルエットに細いベルトをさりげなく利かせ、シャープでモダンな佇まいへと昇華。スカート¥997,700 (トムフォード/トム フォード ジャパン)

Louis Vuitton

アクティブな日常に寄り添う
リュクスなアイテム

〈右から〉長めのトップハンドルとサイズ調整のできる2本のショルダーストラップを備えた“エクスプレス”。スエードならではのマットな質感と柔らかな素材感によって、こなれた表情に。バッグ“エクスプレス MM” [W36×H24×D18.5cm] ¥720,500 肌触り滑らかなフェイクファーとモノグラム・キャンバスでミニチュアダックスを表現したポーチには、取り外し可能なショルダーストラップ付き。ポーチ [W21×H12×D5cm] ¥206,800 ふわもこのホワイトシアリングにボルドーのシューレースが彩りを添える一足。スニーカー [H0.5cm] ¥195,800 [予定価格] (すべてルイ・ヴィトン／ルイ・ヴィトンクライアントサービス)



Neo-Nostalgia

レトロなエッセンスがキーワード クラシカル&モードな小物で秋支度

今シーズン手に入れたいのは、時代を超えて愛されるタイムレスなデザイン。

懐かしさとモダニティが響き合う、洗練された小物で秋の装いを更新して。

photos: Hiroki Watanabe(TRON) / styling: Shizuka Yoshida / realization: Asaka Ikeda



Chanel

メゾンのコードが息づく現代のエレガンス

〈上〉長方形のクラスプが特徴の“2.55”とダブルCをあしらったクラスプの“11.12”。メゾンの伝統を象徴する2つのバッグを組み合わせたダブルフラップが印象的。ハイブリッドなチェーンバッグが圧倒的な存在感を放つ。バッグ [W25×H16×D6.5cm] ¥2,913,900 〈下〉温もりを感じるバーガンディのスエードで仕立てたスリングバック。パステルグリーンにゴールドのダブルCが映えるアッパーとスクエアトゥがモダンな雰囲気を高めて。シューズ [H9cm] ¥253,000 〈左〉べっ甲を思わせるレジンとゴールドカラーを組み合わせた一本。ネックレス¥446,600 (すべてシャネル／シャネル カスタマー ケア センター)

Gucci

受け継がれる美意識と
新たな感性の出会い

〈右から〉艶やかなソフトグレインレザーに
ホースビットが気品を添える。ハンドバッ
グとしてはもちろんのこと、取り外しがで
きるストラップをつけてショルダーやクロ
スポディなど、スタイリングに合わせてア
レンジを。バッグ“ホースビット ドゥオーモ”
[W27.5×H19×D9cm] ¥583,000
GGキャンバスとレザーを組み合わせたシ
ョートグローブは、今季のキーアイテムの
ひとつ。グローブ¥115,500[参考価格]
シグネチャーのホースビットを組み合わせ
た一本。グローブの上に重ねたプレスレ
ット¥145,200 ヒール部分にあしらった
バンパーをちらりと覗かせて。シューズ
[H1.5cm] ¥172,700 (すべてグッチ/
グッチ クライアントサービス)



Dior

気品あるデザインに宿る
大人の愛らしさ

〈右から〉「カナージュ」モチーフにメゾンの
エレガンスが宿るアイスブルーのホー
ーバッグは、柔らかなラムレザー仕立て。
立体感のあるボックスシルエットに、インタ
ーロッキング「CD」グラスプや「D.I.O.R.」
チャームが映える。バッグ“ディオール トウ
ジュール ホーボー” [W22.5×H14×D7.5
cm・ストラップ付き] ¥575,000 カエルを
立体的に模ったバッグチャームを添えて。
チャーム¥159,000 しなやかなスエード
カーフが足元に心地よく寄り添うショール
丈ブーツは、ハイカーブーツを再解釈した
もの。ゴールドの「Dior」シグネチャーがア
グメントに。ブーツ [H1.5cm] ¥280,000
(すべてディオール / クリスチャンディオール)





Hermès

上質な素材と秋色で描く洗練された佇まい

〈右から〉丸みを帯びたフォルムにメゾンの美意識が宿るカーキ色の“ボリード1923”に、トレンチコートのようなデザインのカバーを被せた最新作。カバーは取り外すことができる。2ウェイ仕様。バッグ“ボリード1923・ノボック”[W35×H25×D16cm(実寸)・ストラップ付き]¥2,629,000 [参考価格] ゴールド全具の“ケリー”クラスプが目を引き、グローブ¥226,600 機能性とデザイン性を備えた一品。グローブホルダー¥132,000 イエローのトリミングステッチを施したバケットハット。帽子¥117,700 暖かなメリノウールシープスキンをライニングにあしらったロングブーツは、立体的なメッシュドラパースールがアクティブな雰囲気を出しやす。ブーツ[H4.5cm]¥475,200(すべてエルメス/エルメスジャパン)



Celine

トラッドなアイテムに、モードのエッジを利かせて

〈右から〉しなやかなレザーが織りなす躍動感あるフォルムで魅了するコレクション“キューブ”。フラップの裏にはミラーが配されて。バッグ“キューブ”[W12.5×H12.5×D12.5cm]¥572,000 ポリュームのある滑らかな質感のカシミアスカーフは、ラベルがアクセントに。スカーフ¥105,600 鮮やかなブルーに染まったビーニー。帽子¥99,000 貝殻やアーティチョークなど、多彩なモチーフをランダムにちりばめたプレイフルなネックレス。ネックレス¥869,000 こっくりとしたダークブラウンのロングブーツは、甲にあしらったストラップでメリハリをつけて。ブーツ[H7.5cm]¥390,500[すべて予定価格](すべてセリーヌ/セリーヌ ジャパン)

Miu Miu

繊細な煌めきを添えた遊び心を誘うデザイン

〈左上から時計回りに〉ころんとしたシルエットが愛らしいホーボーバッグ。バッグ本体をふんわりとしたシアリングで包み込んだデザイン。ブレードハンドルやスタッズなど、ウインタージムードが漂うディテールをちりばめて。バッグ“ランデヴー”[W26×H19×D8cm]¥891,000 ピンクからイエローに変化するグラデーションが印象的。サングラス¥67,100 ファーとビジュでリュクスに仕上げたフライトキャップ。帽子¥484,000 アップバーにスパンコールやビジュを幾何学的に敷き詰めた華やかなスライドサンダル。シューズ[H0.5cm]¥269,500[すべて予定価格](すべてミュウミュウ/ミュウミュウ クライアントサービス)



“人生のリズム”がテーマとなった今回のキャンペーン。エネルギーで大胆なベラ・ハディッドと、穏やかさの中に強さを備えたリウ・ウェンという、対照的な2人のファッションアイコンの姿を捉えた

CHOPARD

「ショパール」の“ハッピーダイヤモンド” 誕生50周年 自由と躍動を纏う 永遠のアイコン

「ショパール」を代表するコレクション“ハッピーダイヤモンド”が誕生50周年を迎え、ベラ・ハディッドとリウ・ウェンを迎えた新キャンペーンが始動。さらに注目の新しい時計やジュエリーもリリースされた。

photos: ©CHOPARD
text: Tomoko Kawakami
YG=イエローゴールド、WG=ホワイトゴールド、RG=ローズゴールド

Happy Diamonds 50th Anniversary

1 1976年、「ショパール」はダイヤモンドを従来のセッティングから解放し、2枚のサファイアクリスタルの間で自由に動く“ハッピーダイヤモンド”を発表した。その着想源はドイツのブラックフォレストの滝しぶきにきらめく陽光。デビュー以来、“自由な動き”が魅力の特徴的なデザインは、さまざまなウォッチ&ジュエリーに取り入れられ、「ショパール」を代表するコレクションに成長。1993年には、腕時計の“ハッピースポーツ”も登場し、スティールとダイヤモンドという当時は意外性のある組み合わせと文字盤の上をダイヤモンドが自由に舞う、躍動感溢れるデザインで話題を集めた。

そして、“ハッピーダイヤモンド”が誕生50周年を迎えた今年、1993年のモデルを復刻させた新作時計“ハッピースポーツ ザ・ファースト”が2つのサイズで登場。また2006年にメゾンのアトリエでデザインされたレクタングル（長方形）のペンダントも新たな姿で誕生した。

そんな新しい歴史の幕開けを飾る、誕生50周年のキャンペーンに登場するのは、2024年からアンバサダーを務めるベラ・ハディッドと新たに就任したリウ・ウェン。異なる個性を持つ2人の動きに呼応してダイヤモンドが軽やかに舞うアーティストックなビジュアルは、ポジティブなムードを放って“ハッピーダイヤモンド”の魅力と躍動美を見事に表現している。



オリジナルモデルのエスプリを再解釈し、26mmと33mmの2サイズで登場した“ハッピースポーツ ザ・ファースト”。海辺の丸い小石が着想源のペブルリンクブレスレットは流れるようなラインを描き、手首に美しくフィットするよう再設計された。リサイクル率80%を誇る「ショパール」独自の素材“ルーセントスティール™”を採用したモデルの他、エシカルイエローゴールドモデル、2つの素材を組み合わせたツートンモデルが揃う。**1.**時計 [ルーセントスティール™×ダイヤモンド、ケース径33mm、クォーツ] ¥1,017,500 **2.**時計 [エシカルYG×ダイヤモンド、ケース径26mm、クォーツ] ¥6,358,000 **3.**時計 [ルーセントスティール™×エシカルYG×ダイヤモンド、ケース径26mm、クォーツ] ¥1,617,000 レクタングルシルエットとダイヤモンドの躍動が、視線を集める“ハッピーダイヤモンド アイコン”の新たなペンダント。16.5mmのコンパクトなケースと25.4mmの縦長ケースが登場し、新たにデザインされたレクタングルのリンクチェーンがそのモダンさを引き立てる。**4.**ペンダント [エシカルRG×ダイヤモンド] ¥770,000 **5.**ペンダント [エシカルWG×ダイヤモンド] ¥1,474,000 (すべてショパール/ショパール ジャパン プレス)



2026-27 FW Haute Couture Collection 新時代を開くオートクチュールの最前線

モードの最高峰ともアイディアの実験室とも称されるオートクチュール。
新たな才能を迎え入れ、最先端の創造性が開花する舞台としての存在感を一段と高めている。
ラグジュアリーの行方を占う2026-27年秋冬コレクションをレポートする。

realization: Akari II



Chanel

日常の冒険を称えるクチュールのファンタジー

マチュール・ブレイジーは、創業者の生涯をおとぎ話になぞらえ、『ジャックと豆の木』や『オズの魔法使い』など童話のモチーフを多彩な手法で表現。「シャネル」の服に宿る物語性を浮かび上げさせた。ツイードから花がほころび、刺繍の臺がドレスを伝い、麦わら風のラフィアがジャケットを覆う。さらに、服の内側に忍ばせたメモ書きや、クラッチバッグの内側へのイニシャルの刻印など、身に着ける人だけが知る親密なディテールが、日常に潜むパーソナルな物語を喚起。珠玉の職人技が紡ぐファンタジーを実用に配慮した軽快なシルエットに溶け込ませ、現代女性の日々の冒険に寄り添う装いへと着地させている。

創造の実験室から生まれる、新たなラグジュアリー

19世紀半ばのパリに誕生したオートクチュール。アトリエのスタッフ数から手仕事による制作、シーズンごとの発表ルック数まで厳格に規定され、パリクチュール組合の承認を受けたメゾンのみが、その名を冠することができる。専属の職人に加え、専門アトリエとともに揺るぎない品質と威信を確立してきた。

現代におけるその存在意義は、富裕層向けのビジネスや伝統文化の継承にとどまらない。伝統的なサヴォアフェールと最先端テクノロジーを融合させ、デザイナーの先鋭的なビジョンを具現化する創造の実験室として機能している。商業的制約から

解放たれているがゆえに、時間と労力を惜しみなく注ぎ込んで紡がれる一着は、究極のスローファッションとして持続可能性の観点からも新たな輝きを放つ。
さらに今、世代交代を経てトップデザイナーが出揃い、クチュール界はかつてないクリエイティブな熱量を帯びている。今季、ピエール・パオロ・ピッチョーリによる新生「バレンシアガ」がデビュー。創業者の彫刻的な造形美に敬意を払いながらも、3Dスキニングやバイオ素材を取り入れることで軽やかで現実感のあるバランスに仕上げ、鮮烈な色彩と共に新時代の到来を告げた。
この「ファンタジーとリアリティの共存」は、

今季を象徴する重要なテーマである。新体制で2シーズン目を迎えた「シャネル」は、エアリーな素材と精緻な装飾でおとぎ話の詩情を日常のワードローブに授けている。服の内に隠した秘密のメモやチャームによって、纏う人だけの密やかな歓びに光を当てた。こうした私的な体験に価値を置くインティメイト・ラグジュアリーの流れは、「ジョルジオ アルマーニ プリヴェ」にも息づく。女性の私室「ブドワール」をテーマに、極上の素材とテーラリングを駆使し、官能的なエレガンスを描き出した。
一方、「ディオール」はクチュールを「創造のラボ」と位置づけ、彫刻に着想を得て、

ブリーツやノットの技法により、フォルムの可能性を探究。「スキヤパレリ」もまた実験精神を発揮し、工業的素材を匠の技でクチュールピースへと昇華させた。
究極の創造性を追求するハイエンドファッションの波はイタリアにも及び、「ドルチェ&ガッバーナ」や「フェンディ」がゆかりの都市で特別なコレクションを披露し、クチュールシーンをさらに活気づけている。
現代生活に寄り添う日常性と手仕事が生かす紡ぐ物語性、さらに未知の美を求める最先鋭の試みがオートクチュールという舞台で鮮やかに溶け合い、ラグジュアリーの新たな未来を描き出している。

©Adrien Dirand



Dior

アートの革新的精神が導くダイナミックな造形美
2回目のオートクチュールに臨んだジョナサン・アンダーソンは、アメリカ人彫刻家リンダ・ベングリスの創作をクチュールの言語で解釈。ブリーツやノット、ドレープなど高度な手仕事を駆使することで、二次元の布からダイナミックなフォルムを造形し、「バー」ジャケットをはじめとする象徴的なシルエットを大胆に刷新した。メタリックなテクスチャーや熱帯の緑や花を彷彿とさせる鮮やかな色彩が入り交じり、「ディオール」の永遠の女性像である「フラワーウーマン」を力強く彩る。メゾンのヘリテージを実験的な姿勢で再構築し、新境地を開くコレクションとなった。



Balenciaga

新たなクチュール言語が告げる輝かしい幕開け
鉄の魔術師と称されたクリストバル・バレンシアガの創作の根源にフォーカス。アトリエの技をクチュールの本質に据えつつ、3Dスキャンによる成形や先進素材を活用することでシルエットを厳格な構築性から解放し、軽く浮遊するようなボリュームへと変換している。鮮やかな色彩とフェザー装飾がひと際映え、力強くも軽やかなスタートを祝福。



Giorgio Armani Privé

親密なエレガンスを醸す抑制と官能の美学

シルヴァーナ・アルマーニは、創業者の美学を継承しながら、より親密な感覚を洗練させ、インティメイト・ラグジュアリーの本質を体現するコレクションを発表。流麗なテーラリングがボディをしなやかに包み、光の当たり具合によって繊細に表情を変える素材やニュアンスを含んだ深みのある色調との相乗効果で、纏う人の官能性を静かに引き出す。



Schiaparelli

シュルレアリスムのアプローチで未知のクリエイションを探索

理性から離れた未知の美に挑んだダニエル・ローズベリー。意味の転覆を図るシュルレアリスムの精神に倣い、シリコンやラテックスなどの合成素材と伝統の手仕事を掛け合わせた。人工的なフォルムに貝殻や花の緻密な装飾が施され、奇妙なコントラストを成す。既成概念を打破し、モードに新たな美の可能性を切り拓いている。



Van Cleef & Arpels

表参道に佇む自然と詩情溢れる空間 「ヴァン クリーフ&アーペル」が誘う 幻想の庭へ

自然のモチーフと、アートな感性に彩られた
「ヴァン クリーフ&アーペル 表参道ガーデンブティック」。庭園を散策するように
店内を巡り、美しいジュエリーやウォッチとともに、メゾンが紡ぐ詩情の世界に触れる。

photos: Tsukasa Nakagawa
realization: Megumi Otake

自然美から着想を得た「ジャルダン ポエティック」のコンセプトを、日本で初めて取り入れた表参道ガーデンブティック。ここではメゾンの創造性とサヴォアフェールの結晶であるハイジュエリーや、象徴的なジュエリー、ウォッチ、ブライダルまで、多彩なクリエイションが揃う。扉の向こうに広がるのは、自然と詩情が溶け合う庭園のような世界。植物をモチーフにしたオーガンジーのファサード越しに柔らかな光が差し込み、店内を木漏れ日のように優しく照らしている。庭園を散策するように歩みを進めると、随所に優美なジュエリーやウォッチがディスプレイされ、華やかな煌めきが視界に広がっていく。若草を思わせるグリーンの空間を印象づけるのが、フランス人アーティストによる水彩画の壁面だ。淡いグラデーションは山々や水辺の風景にも見え、見る人の想像力によってさまざまな情景を浮かび上がらせる。吹き抜けに沿う階段から2階へ進むと、差し込む光によって空間の表情が一変

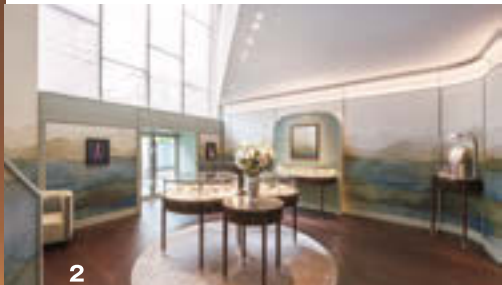
し、心地よい余韻をもたらす。メゾンの感性に触れながら、新たなジュエリー&ウォッチとの出会いを楽しむ。そんなひとときもまた、このブティックだからこそ味わえる特別な体験だ。柔らかな光と色彩に包まれながら、多彩なクリエイションを心ゆくまで堪能してみたいはいかだろうか。



ヴァン クリーフ&アーペル
表参道ガーデンブティック
住所: 東京都渋谷区神宮前5-11-5
tel: 店舗直通03-6712-6295/
ヴァン クリーフ&アーペル ル デスク0120-10-1906
営業時間: 11:00~19:00
不定休



1st Floor



1, 2. ファサード越しから外光が差し込み、時間とともに移ろう光が店内の表情を変えていく 3. 1階奥には「フラワーレース」などのハイジュエリー コレクションを展示。自然界の美しさを映すアシンメトリーな花びらとダイヤモンドが美しく響き合う 4. 2階のメインスペースは、グリーンを基調とするゆったりとした空間。曲線を描くソファが、柔らかな雰囲気を演出 5. 2階奥のVIPルームは、朝焼けを思わせる温かな色調に。ライブラリーには、自然や季節の移ろいを想起させるオブジェが並ぶ

2nd Floor

marie claire
FASHION

2026-27 FW Haute Couture Collection イタリアブランドが発信する 最高峰モードにフォーカス

パリ・オートクチュール・ファッションウィークに前後して、イタリアを代表する2つのブランドが、
ハイエンドなコレクションを披露。グラマラスな熱気に満ちたクリエイションの全貌を公開する。

©DOLCE&GABBANA



Dolce&Gabbana

絢爛豪華に花開くイタリアン・ラグジュアリーの精華

アルタ モーダは、「ドルチェ&ガッバーナ」が年に1度披露する女性用高級仕立服のコレクション。今年は、ブランドのオリジンとして重要な着想源となっているシチリアが舞台に。緑豊かな植物園にて、ファット ア マーノと呼ばれる手仕事の技を結集し、この地に息づく伝統工芸と自然が織りなす唯一無二の美を壮麗なドレスに写し取った。装飾的なテラコッタの鉢やカボディモンテ磁器を着想源に花々を緻密な刺繍やインレイ、立体的なカットワークなど匠の技で表現。上質な素材を艶やかに彩り、魔法のような高揚感に満ちたドラマチックな装いを生む。卓越した職人技と地元文化へのオマージュを示すとともに、イタリアン・ラグジュアリーの真髄を証明する圧巻のショーとなった。

©Thomas Legrand



アルタ モーダに先駆け、ハイジュエリーコレクションの「アルタ ジョイエッレリア」を発表。シチリアに根差した信仰文化や自然がもたらす豊かな恵みがインスピレーション源に。鮮やかな色彩と精緻な技に息をのむ



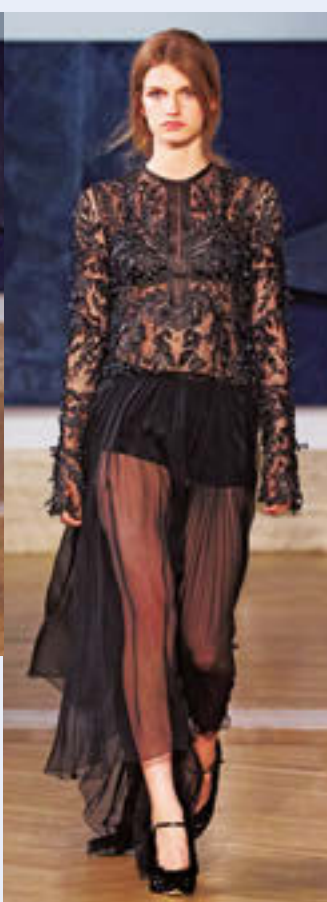
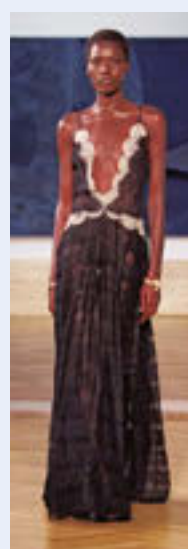
煌びやかな一着で現れたジェニファー・ロペスをはじめ、世界中からセレブリティや顧客がドレスアップして駆け付けた



会場となったローマ国立近代美術館では、1985年の伝説的な展覧会を再構成した「After - 仕事を通じた歩み / カール・ラガーフェルド1985」を同時開催。カール・ラガーフェルド時代の創作を紹介し、「フェンディ」のものづくりを振り返る機会に



〈右から〉俳優の柴咲コウをはじめ、サラ・ジェシカ・パーカー、ジェシカ・アルバなど豪華ゲストが集い、新生「フェンディ」初のクチュールコレクションを祝福。ショーと併せてエキシビションを楽しんだ



Fendi

贅沢な触感和流麗なシルエットが奏でるモダニティ

マリア・グラツィア・キウリが「フェンディ」でのクチュールデビューにあたり、発表の場を選んだのはブランド発祥の地ローマ。ルーツであるファーやレザーの贅沢なテクスチャーを主役に、それを最大限に生かし新たな魅力を引き出すフォルムやテクニックを追求した。極薄になめしたり、緻密なカットワークでレース状に仕上げることで、官能的な触感はそのまま、驚くほど軽やかな印象に。シフォンやサテンと一体となってボディを流れ落ち、モノクロームの静謐な世界にロマンティズムを紡ぐ。



〈左上から時計回りに〉**Chaumet** 植物の香りやフレッシュさなど、その最も繊細な感覚まで余すことなく表現した「ジャーニー スルー ネイチャー」。スターアニスをモチーフにしたブローチは、大小の花をアシンメトリーに配し、軽やかなリズムを生み出している。ホワイトゴールドの繊細な表情に、キャンディピンクのサファイアとダイヤモンドが美しく響き合い、瑞々しく優雅な華やぎを添える。ブローチ「スター アニス」[WG×ピンクサファイア×ダイヤモンド] ¥79,090,000 [参考価格] (ショーム) **Louis Vuitton** 神話に宿る普遍的なエレメントから着想を得た、新作ハイジュエリーコレクション「ミシカ」は、11のテーマを通して、自らの物語を切り拓く女性の姿を描く。そのひとつ「トライアンフ」は、再生としなやかな強さを不死鳥の翼に重ねて表現。イエローゴールドでダイナミックに描いたロングネックレスは、ロープを想わせるホワイトゴールドに1350石のダイヤモンドをバヴェセッティング。異なる質感のコントラストが、力強く高貴な佇まいを際立たせる。ネックレス「トライアンフ」[PT×YG×WG×ダイヤモンド] ¥162,470,000 [参考価格] (ルイ・ヴィトン／ルイ・ヴィトン クライアントサービス) **Hermès** 馬の気配や内に秘めたエネルギーをジュエリーへと映した「イントゥ・ザ・ホーススケープ」。ジュエリー部門のクリエイティブ・ディレクターを務めるピエール・アルディが着目したのは、エミール・エルメス・コレクションに所蔵される18世紀のミニチュアの鞍。その精緻な意匠を、卓越した技巧によってブレスレットへと再現した。レザーを思わせるサテン調のチタンに、繊細な装飾を施したゴールドとダイヤモンドが華やぎを添え、歴史あるオブジェを大胆かつ現代的なクリエイションとして蘇らせた。ブレスレット[YG×WG×チタン×ダイヤモンド] ¥147,763,000 [予定価格] (エルメス／エルメスジャパン) **Fred** 創立90周年を記念したハイジュエリーコ

レクション「ムッシュ フレッド ゴールデンライト」。創業者がこよなく愛したリヴィエラから着想を広げ、刻々と表情を変える南仏の光と風景を、色彩豊かなカラーストーンと卓越した技巧で表現した。涼しげな色彩が目を引きリングは、朝の澄み渡る海と空を思わせるトルマリンのグラデーションが美しい。マザーオブパールとダイヤモンドの煌めきとともに、陽光を受けて水面に光が揺らめくような風景を描き出している。リング「クリスタライン ジョイ」[WG×トルマリン×MOP×ダイヤモンド] ¥29,810,000 [参考価格] (フレッド／フレッド カスタマーサービス) **Messika** 「メシカ」が新たに発表したのは、手つかずの自然が広がるボツワナの大地に着想を得たハイジュエリーコレクション「テール・ド・コントラスト」。砂漠や湿地、塩湖など、変化に富んだ風景に宿る力強いコントラストを、大胆なクリエイションへと落とし込んだ。鋭角的なゴールドのパーツをリズミカルに連ねたネックレスには、ダイヤモンドを贅沢にセッティング。砂漠の起伏や大地に降り注ぐ光を思わせる、モダンでダイナミックな造形が際立つ。ネックレス「フェロス」[YG×ブラックオパール×ダイヤモンド] ¥72,930,000 [参考価格] (メシカ／メシカ ジャパン) **Mikimoto** 果てなく広がる宇宙と神秘的な光を、パールやダイヤモンドで描いた「ミキモト」のハイジュエリーコレクション「レクラ」。幾重にも連なるアコヤ真珠が優美な曲線を描くネックレスは、大粒の白蝶真珠を中心に、ダイヤモンドと白蝶貝を放射状に配したダイナミックなモチーフが印象的。繊細なパールの艶めきと眩い光が呼応し、幻想的かつ壮麗な佇まいを生み出している。ネックレス「レクラ」[WG×アコヤ真珠×白蝶真珠×ダイヤモンド×白蝶貝] ¥99,000,000 (ミキモト／ミキモト カスタマーズ・サービスセンター)



The New High Jewelry メゾンの美学が息づく新作ハイジュエリー 至高の輝きに宿る創造と技

各メゾンの美意識を映し出す、新作ハイジュエリーの数々がパリ・オートクチュール・ファッションウィークの期間やその前後で、発表された。自然や神話、メゾンの歴史など、さまざまなインスピレーションを背景に、卓越した技巧と豊かな創造性が結実した、注目の逸品を紹介する。

photo: Panuwat Sriantawong/Stock.com / realization: Megumi Otake
YG=イエローゴールド、WG=ホワイトゴールド、PG=ピンクゴールド、PT=プラチナ

〈左上から時計回りに〉**Cartier** ストーンに宿る個性と輝きを最大限に引き出す、ハイジュエリーコレクション「ル クール デ ギエール」。その新たな章を彩る作品のひとつ、「トゥッティ エリアンタ」は、ヒマワリの特徴的なフォルムが着想源となっている。細長いV字のシルエットに、螺旋状のダイヤモンドバヴェ、オニキス、花のようなルビーとエメラルドをリズミカルに配し、自然に内在するダイナミックなエネルギーを表現。トップには11.54ctのルビーを配し、ひときわ強い存在感を放つ。ネックレス「トゥッティ エリアンタ」[PT×ルビー×エメラルド×オニキス×ダイヤモンド] ¥666,600,000 [参考価格] (カルティエ／カルティエ カスタマー サービスセンター) **Van Cleef & Arpels** 古代エジプトの美と文化に敬意を捧げたハイジュエリーコレクション「エジプトの魅惑」。威厳に満ちたクレオパトラの姿を描いたクリップは、ローズカット ダイヤモンドでその顔を描き、頭飾りから靴までを貴金属とダイヤモンドで華やかに装飾。右手には生命を象徴するアンク十字、左手には王笏を携え、流れるようなイエローゴールドのリボンが優美なシルエットを描く。クリップ「ミューズ エテルネル」[WG×YG×ダイヤモンド] [参考商品] (ヴァン クリーフ&アーペル／ヴァン クリーフ&アーペル ル デスク) **Boucheron** 新たな「カルト プランシユ」コレクションとして発表された「ヒューマン ビーイング」。ヴィクトリア朝時代のタトゥーの芸術美に着想を得たネックレスには、メゾンが長年愛してきたゴビーやバラ、蝶、鳥、蛇などのモチーフを採用。スモーククォーツの裏面にグリプティク技法で彫刻を施し、肌に描かれたタトゥーのような意匠を生み出している。ネックレス「タトゥー」[WG×ダイヤモンド×スモーククォーツ] ¥385,440,000 [予定価格] (ブシュロン／ブシュロン クライアントサービス) **Chanel** マドモアゼル シャネルが愛したエンブレムに敬意を

表し、4つの章で構成されたハイジュエリーコレクション「シーヌ エ サンボル」。第3章「レ ビジュー タリスマン」は、守護の力を宿すタリスマン ジュエリーへのオマージュだ。マドモアゼル シャネルが大切にしていたラッキーモチーフに敬意を込め、彼女が愛したコメットを大胆に描き、アミュレットのようなジュエリーへと昇華させた。ブレスレット「タリスマン コントラスト」[WG×ダイヤモンド×オニキス×ブラックセラミック] ¥150,700,000 [参考価格] (シャネル／シャネル カスタマー ケア センター) **Graff** ブランドを象徴する「グラフ バタフライ」を、モダンに再解釈したブローチ。サファイアやエメラルド、トルマリン、ダイヤモンドの煌びやかなグラデーションで幻想的な蝶の色彩を表現している。ペンダントとしても着用できるため、異なる表情を楽しめるのも魅力だ。バタフライブローチ「エヴァ」[サファイア×トルマリン×ダイヤモンド×エメラルド] ¥19,360,000 (グラフ／グラフダイヤモンドズジャパン クライアントサービス) **Dior** 自然の豊かさと詩的な世界観を表現した、ヴィクトワール・ドゥ・カステラヌによる新作ハイジュエリー「ディオリシマ」。色鮮やかな花々や植物を思わせるモチーフを多彩なカラーストーンで描いたイヤリングは、重厚感のあるブラックを背景にピンクサファイアやターコイズ、ガーネットなどを配し、幻想的な庭園を表現。愛らしいフラワーモチーフが耳元を華やかに彩る。イヤリング「ディオリシマ ジャルダン ポップ」[PG×ダイヤモンド×ピンクサファイア×イエローサファイア×ツァボライト×ロードライトガーネット×スベサルタイトガーネット×ターコイズ×MOP×ラッカー] ¥67,000,000 [参考価格] (ディオールファイン ジュエリー／クリスチャン ディオール)



ブランドの美意識が詰まったフラッグシップ ブティック

歩足を踏み入れた瞬間から上質感が漂う、洗練を極めた「ロレックス ブティック ヒルトンプラザ大阪」。趣の異なる2フロアに分かれた店内は、総面積450平方メートルを超える西日本最大級の広さ。天井が高く開放感のある1階は、ベージュにウォルナットの木目を組み合わせた明るい空間。ブティック内には、ブランドカラーであるグリーンが象徴的な約10メートルのアクアウォールやジュビリープレスレットをイメージしたシャンデリアなど、随所にブランドの哲学がちりばめ

られている。また2階には、ゆっくりと時計をセレクトできるプライベートレセプションルームをはじめ、オリジナルカクテルなどが味わえるバー&ラウンジ、メンテナンスの相談ができるアフターサービス専用カウンターなどを用意。ゲストに寛いでもらえるようにとの想いから少し照明を落とした工夫を施すなど、細部にまで繊細なホスピタリティが息づいている。卓越性を追求する「ロレックス」の世界へと誘う特別なブティックなら、毎日を共にする運命の一本と出会うことができるはずだ。

〈右上〉2フロアを繋ぐ、ブランドカラーのグリーンに仕上げたガラス製のアクアウォール。光の反射で変化する、波打つようなグラデーションが印象的 〈左上〉穏やかな時間が流れる2階を照らすランブシェードは、時計の日付を拡大するためのサイクロップレンズがモチーフになっている 〈右下〉温もりあるインテリアでまとめた空間など、テイストの異なるプライベートレセプションルームがそれぞれのフロアに用意されている 〈左下〉バーカウンターで提供されるのは、「ロレックス」をイメージしたオリジナルのカクテルやモクテル。事前に来店予約をすると、ウェルカムドリンクを堪能しながらショッピングが楽しめる



ROLEX 西日本最大級の 「ロレックス ブティック ヒルトンプラザ大阪」 洗練ウォッチと空間に息づく ブランドの美学

端正なデザインと精緻な機能性を兼ね備えた
スイスを代表するウォッチブランド「ロレックス」。
西日本最大級の敷地面積を誇る、
「ロレックス ブティック ヒルトンプラザ大阪」を訪れ、
その哲学が息づく空間を巡る。

photos: Yoshiyuki Nagatomo
styling: Chie Atsumi (ota office)
hair & make-up: Keita Iijima (mod's hair)
model: Risa Hosoya
realization: Asaka Ikeda

ファサードが煌めく 存在感ある旗艦店

街並みに映える華やかなファサードは、和紙や金箔など、日本の伝統工芸から着想を得てデザインされたもの。ペゼルのフルーテッドパターンを象った幾何学的なラインが目を引いて。時計「オイスター パーペチュアル 34」[SS、ケース径34mm、自動巻き] ¥947,100 (ロレックス / ロレックス ブティック ヒルトンプラザ大阪) ニット ¥245,300 カーディガン ¥264,000 スカート ¥301,400 (アダム リベス / アダム・リベス) 靴 (スタイリスト私物)



フィロソフィーが宿る 開放感に満ちたブティック

ゆったりとした時間が流れるブティック1階には「ロレックス」のために作られた特別なインテリアが配されている。例えばセンターで存在感を放つカウンターの側面には、フルーテッドベゼルを模した装飾が。また天井で優美に輝くシャンデリアは、ジュビリーブレスレットがインスピレーション源となっている。時計「レディ デイトジャスト」[SS×RG、ケース径28mm、自動巻き] ¥1,976,700 (ロレックス／ロレックス ブティック ヒルトンプラザ 大阪) トップス ¥321,200 パンツ ¥282,700 (すべてアダム・リベス／アダム・リベス) 靴 (スタイリスト私物)

お問い合わせ先: ロレックス ブティック ヒルトンプラザ大阪 06-4300-6713 www.rolexboutique-hiltonplaza-osaka.jp/

長く愛用するための
充実したアフターサービス
オーバーホールやブレスレットの調整、
クリーニングなど、購入後のさまざまな
相談に応じてくれるアフターサービス
専用カウンター。「ロレックス」独自の
トレーニングを受けた熟練のサービス
アドバイザーが常時在籍



自分だけの一本に出会える
豊富なバリエーション
(右) 端正なフォルムにしなやかなブレス
レットとチョコレートブラウンのダイヤ
ルが映える優美なデザイン。時計「レ
ディ デイトジャスト」[SS×RG、ケー
ス径28mm、自動巻き] ¥1,976,700
(左) マットなベージュのダイヤルがさり
げなく目を引くモダンな一本。時計「オ
イスター パーペチュアル 34」[SS、
ケース径34mm、自動巻き] ¥947,100
(ともにロレックス／ロレックス ブティ
ック ヒルトンプラザ大阪)



美術館を彷彿とさせる
洗練と美学が息づく空間
グリーンの背景に浮かび上がるように
展示されたタイムピースは、まるでモ
ダンアートのような雰囲気。一点一点を
じっくりと鑑賞して、お気に入りの一本
を見つける

ロレックス ブティック
ヒルトンプラザ大阪
〒530-0001
大阪府大阪市北区梅田2-2-2
ヒルトンプラザ WEST 1・2階
tel: 06-4300-6713
営業時間: 11:00～19:00
定休日: 第1・第3水曜日
フロア数: 1・2階
修理受付: アフターサービス専用
カウンター有り
来店方法: 来店予約制(購入希望の
場合は来店予約が必要)





Beauty on Board

旅を彩るクルーズビューティ

船上時間のお供にふさわしい、上質なビューティアイテムたち。
心を豊かにするケア、モダンなメイクアップ、旅情を誘う香り……。優雅なバカンスを、美で満たして。

text: Kiriko Sano

1.OFFICINE UNIVERSELLE BULY 豊かな香りのペスト状ソープ。旅先で手を洗うたびに、花々と植物の爽やかさを感じられる。バット・ドゥ・サヴオン イリス・ドゥ・マルト 75mL ¥5,390 / オフィシーヌ・ユニヴェルセル・ビュリー
2.GUCCI beauty 新たなフレグランスコレクションに基づくパレット。庭園を思わせるカラーを3つの質感で楽しんで。グッチ フローラ アイ パレット (サンセット オーキッド) ¥12,100(限定販売中) / グッチ ビューティ **3.MENARD** 8種の植物エキスを感動のハリ肌へ。フェイスラインや首、デコルテまでケアできる贅を極めたマスク。肌を見せるシーンの仕込みに。メナード オーセント マスク ¥6,600(10月21日発売) / メナード **4.MEMO PARIS** 旅にインスパイアされた香りのメゾンより、海の香りが到着。大西洋を思わせる、レザー調のマリンノート。メモ パリ オーシャン レザー オードパルフム 75mL ¥53,900 (10月7~12日イセタン サロンド パルフアンにて限定発売) / ブルーベル・ジャパン
5.DECORTÉ クリスタルの匠、「バカラ」とのコラボレーション。真のラグジュアリーを体現するブランド最高峰クリームで、まだ見ぬ理想の肌へ。コスメデコルテ AQ ミリオリティ ザ クリーム デコラシオン Baccarat Edition 60g ¥264,000 (受注販売) / コスメデコルテ **6.LA PRAIRIE** キャビア由来成分による確かなケア効果で知られる名作がリニューアル。メイクしながら、ハリと引き締め感まで。SC コンシーラー・ファンデーション SPF30 PA+++ 30mL、コンシーラー 2g 全8色 各¥42,460 / ラ・プレリー **7.SISLEY** 大人の頭皮用美容液で、豊かな髪をなびかせて。頭皮の常在菌バランスに着目し、健やかな頭皮環境へと整える。ヘア リチュアル フォーティファイング セラム フォー ザ スカルプ アドバンスト 60mL ¥40,700 / シスレー・ジャパン **8.PRADA BEAUTY** 〈下〉塗るとバームからジェル状へと変化する、アイコンックなリップケア。プラダリップ ジェリー 01 ¥7,700(10月2日発売)、〈上〉ファッションアーカイブから、イトカラーのパープルを解釈したチーク。プラダ タッチ P37 ¥6,930(限定販売中) / プラダ ビューティ **9.CHANEL** 肌の生体リズムに着目した、至福の目元用バーム。優雅な使い心地で、10個の突起がついたアプリケーションでマッサージすると翌朝は目元が見違えるよう。サブリマージュ レクストレ ボーム ルガール 15g ¥72,600 / シャネル

Brooch Magic

秋の装いに洗練を添えるブローチの魔法

秋のレイヤードスタイルに欠かせない、胸元を彩るブローチにフォーカス。メゾンの美学を映した多彩な表情が、ジャケットやニット、ストールに唯一無二の存在感をもたらす。ひとつ纏うだけでスタイルの主役となる、珠玉のピースをセレクト。

realization: Miyuki Kikuchi
YG= イエローゴールド、WG= ホワイトゴールド、PG= ピンクゴールド、PT= プラチナ

1.Van Cleef & Arpels 慈愛に満ちた自然から着想した“ラッキー アニマルズ”コレクションのリス。カーネリアンとタイガーズアイの豊かな色彩に、メゾンのアイコンックなゴールドピースの縁取りが映え、愛らしさと優美さが共存。ブローチ“ラッキー アニマルズ スクワラル クリッパ” [RG×カーネリアン×タイガーズアイ×オニキス] ¥1,333,200 (ヴァン クリーフ&アーペル / ヴァン クリーフ&アーペル ル デスク) **2.Tiffany & Co.** ブルーバイオレットの神秘的な輝きを湛える宝石“タンザナイト”。産地タンザニアへの敬意を込めて「ティファニー」がその名を授け、世界へと広めたレガシーストーン存在感と、小鳥の可憐な佇まいが美しく調和する。ブローチ [YG×PT×タンザナイト×ダイヤモンド×ピンクサファイア] ¥23,595,000 [参考価格] (ティファニー / ティファニー・アンド・カンパニー・ジャパン・インク) **3.Chamet** 幸運の象徴でもあるミツバチを表現した「アペイユ」。深く澄んだサファイアと煌めくダイヤモンドが響き合い、胸元に気品と華やきを添える。ブローチ“アトラップ モウ アペイユ” [WG×ダイヤモンド×サファイア] ¥4,158,000 (ショウ・ス) **4.Louis Vuitton** メゾンを象徴するモノグラム・フลาวアーをエレガントに再解釈。幾重にも重なるホワイトゴールドの花びらとダイヤモンドの煌めきが、優美な曲線と豊かな立体感を描き出す。ブローチ“イディール プロッサム” [WG×ダイヤモンド] ¥13,145,000 (ルイ・ヴィトン / ルイ・ヴィトン クライアントサービス) **5.Dior** ムッシュ デイオールが愛したラッキーモチーフを遊び心豊かに表現。タイガーアイやオニキス、マザーオブパールにダイヤモンドを重ね、ミツバチやスズランがお守りのように装いを彩る。ブローチ“ローズ デ ヴァン チャーム” [YG×PG×ダイヤモンド×タイガーアイ×オニキス×マザーオブパール] ¥1,250,000 (ディオール ファイン ジュエリー / クリスチャン ディオール) **6.Tasaki** [RITZ PARIS]の庭園に咲くバラから着想を得たブローチ。バラの芽を思わせるブラックオパール幻想的な色彩と、カラーストーンで描くしなやかな茎が響き合い、まるでアート作品のような一点。ブローチ“ジャルダンドゥ ローズ” [PT×ダイヤモンド×ブラックオパール×エメラルド×アレキサンドライト×デマントイドガーネット] ¥72,160,000 (TASAKI) **7.Mikimoto** 風にそよぐローバーを立体的に描き、艶やかなアコヤ真珠とダイヤモンドの輝きが繊細なディテールを際立たせたブローチは、幸運をそっと運んでくれるような優美さを湛えている。ブローチ“フォーチューン リープス” [WG×ダイヤモンド×アコヤ真珠] ¥1,430,000 (ミキモト / ミキモト カスタマーズ・サービスセンター) **8.Buccellati** 1990年代に日本のために誕生した名作“マグノリア”を復刻。メゾンに受け継がれる金細工の手彫り技法「セグリナート」と「リガート」による繊細な彫りが、花びらと花芯に繊細な陰影と表情をもたらす。ブローチ“マグノリア” [YG×WG×PG] ¥2,090,000 (ブチュラッティ)

美しさは細胞から始まる
スキンロンジェビティ発想の新作スキンケア

LANCÔME
注目成分「ミトビュア」を
コスメに応用

近年、サプリメントで注目されている成分の「ウロリチンA」。ザクロやベリー類、クルミなどに含まれる「エラグ酸」が代謝されて生まれるこの成分を、高純度でマイクロ化し、「ミトビュア」として日本で初めてスキンケアに応用することに成功。細胞内の不要物を除去する働きを高めることで、加齢を先回りしてケアできる、老化研究の最前線を象徴するような一本。アブソリュM.D. インターセプト セラム 50mL ¥29,700／ランコム

DIOR
15の老化指標から
“細胞年齢”に挑む

リバース エイジングの実現を掲げ、肌老化とは何か?の定義に初めて成功、15の指標を特定した「ディオール」。そこから開発された新成分「ローズ ヘプチド™」をテストした結果、細胞年齢マイナス10歳というデータも。そのパワフルさと、優雅な使い心地とのギャップに驚く。使った翌朝は、肌の輝きに深い感動を覚えるはず。美容医療の施術後のケアとしても。プレステージラクレーム 50mL ¥58,080／バルファン・クリスチャン・ディオール

clé de peau BEAUTÉ
老化細胞を除去しながら
毛細血管を丈夫に

再生医療発想の画期的なクリームが誕生。細胞の自然死に関わるスイッチを“ON”にして、老化した細胞を除去。フレッシュな細胞への置き換えを促すことで、エイジングを抑制してくれる。さらに毛細血管の細胞同士の間を詰まりを強め、血管を強固にすることで、肌のすみずみまで栄養を届けやすい状態へ導く。洗練された香りとテクスチャーで、ラグジュアリー感に浸れるのも魅力。クレームレストラウリスS 50g ¥55,000／クレ・ド・ポー ボーテ

CLARINS
加齢×ライフスタイル、
ダブルのエイジングケア

名作、ダブル セラムの目もと専用美容液がリニューアル。環境やライフスタイルによる後天的な変化と、加齢そのものによる変化の両方に対応する。植物由来のマジョラムエキスによって、後天的にスイッチが“OFF”になった遺伝子に働きかけ、肌の弾力に関わるエラスチンの形成を促進。ターメリックエキスが酸化ストレスを低減し、抗酸化作用で細胞のコンディションを健やかに。ダブル セラム アイ ADC 20mL ¥11,000／クラランス

episteme
エイジングの元となる
老化細胞を抑制

かねてより再生医療研究を続けてきたロート製薬。今回、何千種類もある細胞内の情報伝達物質から、細胞のエイジングを抑制する因子“miR-R”の特定に成功。特許を出願した複合保湿成分によって、“miR-R”の量を増やす画期的な美容液が誕生した。1本10日間、約40日間の集中ケアで、肌のハリ感や若々しさが見違えるよう。ステムサイエンスRXショット a 8mL×4本 ¥42,900／ロート製薬

Skin Longevity
エイジングの未来を変える
スキンロンジェビティ最前線

今秋、スキンケア業界で飛び交う、「スキンロンジェビティ」という新たなキーワード。その背景にある、老化そのものへの介入を目指す長寿研究について、専門家に現在地を聞いた。

photo: Hiroki Watanabe (LATERNE)
text: Kiriko Sano

医療分野の長寿研究に着想を得た「スキンロンジェビティ」。シミやシワをケアするとい

った表面的なものではなく、肌を構成する細胞そのものの健やかさに目を向け、より長く若々しさを保つことを目指す――。その源流となる長寿研究に長年携わる山田秀和先生はこう解説する。

「2000年以降、長寿研究では単に寿命を延ばすことより、健康に生きられる期間を延ばすことが重視されるようになりました。生物の寿命そのものにはまだわからないことが多い一方、加齢に伴って体内で生じるさまざまな変化の研究が進み、老化のプロセスに介入できる可能性が見えてきています。近年はハーバード大学のデビッド・シンクレア教授らが、老化させたマウスの視神経細胞を“若い状態へと巻き戻し”、視力を回復させることに成功した研究が話題になりました。ただし、人にすぐ適用できるわけではなく、臨床試験が始まったばかり。実用化がいつになるのかは未知数です」

そもそも、エイジングとはどのようなプロセスを指すのだろうか。「時間の経過とともにエイジングが進む、といういわば“暦年齢通り”の老化に対して、いまは後天的な変化が注目されています。例えば、同じ遺伝子を持つ双子でも生活環境で見た目や健康状態が変わるように、遺伝子もライフスタイルにより化学的な変化が加わり、スイッチのON／OFFが切り替わることで、その働き方が変化します。これが近年言われる、いわゆる“エピジェネティクス”的な変化と呼ばれるもので、研究が進むに

つれて、元々の遺伝子だけでなく、環境やライフスタイルによる後天的な変化の影響も大きいことがわかってきたのです」

身体のロンジェビティは「運動、栄養、精神、環境、治療」の5本柱で捉えられている、と山田先生。精神的な幸福感や生きがいまで含めて、人を“全体”でみることが重要だという。私たちは健康でいるために、そして美のためにも、まずは生活習慣や環境を整えることが必要なのだ。

昨今は「エピジェネティック・クロック」と呼ばれる、体の生物学的年齢を推定する手法も登場している。「自分の生活が肌や体にどう影響しているかを知る“物差し”になります。全身の統一された評価基準は模索段階ですが、その点、皮膚は直接観察・測定してデータが得やすいため、多くの研究者が美容領域に参入しています。今や、化粧品と医療はシームレスに繋がっているのです」

今秋の新作コスメは「スキンロンジェビティ」という発想は共通しているが、そのアプローチは実にさまざま。まず1品から、取り入れてみたい。

山田秀和 Hidekazu Yamada
医学博士。近畿大学医学部を卒業。ウィーン大学、米国NIHを経て、近畿大学医学部で教授を務める。2007年には同大学にアンチエイジングセンターを創設。現在は大阪大学大学院医学研究所招聘教授、近畿大学および大阪公立大学客員教授を務める傍ら、臨床も行い、加齢に関わる研究を続けている。2021～2025年に日本抗加齢医学会の理事長、2025年大阪・関西万博にて大阪バリオン推進委員およびヘルスケア先端予防医療ディレクターも務めた。

Four seasons I

フォーシーズンズ ワン

クルーズ最高峰の占有面積、大人だからこそその贅沢を

今年3月に就航したフォーシーズンズ初のクルーズ船「フォーシーズンズI」が誇るのとはなんと言ってもその広さ。通常の豪華客船は50tほどの「スペース・レシオ」が3倍以上の191tというだけでも、その規模感が感じられるはず。全室テラス付きスイートで、最も標準的な客室でも約50㎡以上と、一般的な高級クルーズ客室の約2倍の広さに。客船の煙突部分を丸ごと利用した4層構造の最上級スイート「ファンネル・スイート」に至っては、360度のパノラマビュー、広さ約927㎡にプライベートプールや専用サウナまで揃う充実ぶり。乗客180名に対して乗員160名と、手厚いホスピタリティも魅力だ。さらに合計11もの多彩なレストランやバーが用意されており、「シャンパン&キャビア」専用テラスやカクテル文化を再現した「バー・オー」、シガーラウンジなど、洗練された大人のためのスペースが充実している。

Four seasons I
就航/2026 マルタ 総トン数/34,000t
客室数/95室 乗客定員/180名 乗組員数/160名
●フォーシーズンズ ヨット
www.fourseasonsyachts.com



1. ユニークな「多目的プール」は、底がせり上がり、屋外ダイニングやダンスフロアなどにも 2. 映画「007」の黄金期、1960年代のスーパーヨット風のデザイン 3. 自家用機などで世界を飛び回るセレブ層「ジェットセット文化」をオマージュした「バー・オー」



Hotel's Yacht Cruise

LUMINARA

ルミナアラ

光豊かな開放感とオールインクルーシブのおもてなし

ラグジュアリーホテルブランドとして知られる「ザ・リッツ・カールトン」が展開するクルーズコレクションに昨年加わった最新の船「ルミナアラ」。ラテン語で「光」を意味する船名の通り、自然光をふんだんに取り入れるガラス張りのデザイン、明るいウッドトーンや柔らかなベージュ、ナチュラルなファブリックを中心に構成され、温かみのあるライティングがリラックスできる邸宅感を醸し出す。その特徴はオールインクルーシブ（一部例外あり）。船尾には海へ直接アクセスできる

専用マリーナがあり、停泊中にはパドルボードやカヤックなどの水上アクティビティを目の前の海で楽しめるほか、食事やアルコール、チップまでが乗船料に含まれる。さらにアメリカでミシュラン一つ星に輝くイタリアン「フィオーラ」のファビオ・トラボッキシェフが手掛けるレストラン「セータ ス ルミナアラ」では、イタリアワインとのマリアージュも堪能できる。

—
LUMINARA
就航/2025 マルタ 総トン数/46,750t
客室数/226室 乗客定員/452名 乗組員数/374名
●リッツ・カールトン ヨットコレクション
www.ritzcarlton.com/ja/yachts

1. 大自然の中で深呼吸するような時間を生み出す、海と空に溶け込むインフィニティプール 2. 全室がスイートで、広々としたテラスが、屋内から屋外をシームレスにつなげて 3. ゆったりと配置されたテーブル、木目調のインテリアがくつろぎを生み出す「セータ ス ルミナアラ」



テラスを含めると約927㎡という破格の広さを誇る「フォーシーズンズI」のアイコン的なファンネル・スイート

Travel 洋上の五つ星ホテルからはじまる エクスクルーシブな船旅



「ルミナアラ」。プライベートヨットを想起させる流線型のデザインは、フィンランドの「Aivan」が手がけた

ただ客室にただで、朝に夕に、豊かな大自然が織りなすさまざまな表情を見せてくれるクルーズの魅力。近年、ラグジュアリートラベルの注目は、「シームレス」と「プライベートで個性あふれるサービス」の2点。そんな流れから、ホスピタリティに自信を持つ高級ホテルブランドがクルーズ業界に続々と参入している。これまで以上にきめ細かなおもてなしとエクスクルーシブ感が新たなスタンダードとなったことから、既存のクルーズ会社も含め、クルーズ界はスモール&ラグジュアリーへと進化。ゆったりとした時間の流れはそのままに、体験価値を高めた船旅が話題を集めている。そんな時代の風を堪能できるクルーズを厳選してご紹介。

text: Kyoko Nakayama



LE COMMANDANT CHARCOT

ル・コマンダン・シャルコー

豪華砕氷船「ル・コマンダン・シャルコー」で南極へ

客 船として唯一、北極点に到達可能な厚さ2.5m以上の氷も砕くことができる最高クラスの氷海性能「ボーラー・クラス2」を持ち、南極や北極などの極地クルーズが楽しめる「ル・コマンダン・シャルコー」。液化天然ガスと電気バッテリーを組み合わせたハイブリッド推進システムを搭載した環境負荷を抑えた動力を使い、環境への配慮を行うだけでなく、客船内に研究ラボが常設され、科学者チームが極地研究を行うなど、社会的責任を果たすラグジュアリーであることが特徴的だ。

また、ボナンでは「小型プレミアム船」の強み

を活かし、大型客船が入港できない日本の離島や瀬戸内海の小島、瀬の浦、犬島などの水深の浅い港へ直接アプローチできる「ル・ソレアル」や、世界初の水中ラウンジを備え、色とりどりの熱帯魚を見ることができる「ル・ジャック・カルティエ」などが日本クルーズも行っている。

—
LE COMMANDANT CHARCOT
就航/2021 フランス 総トン数/31,757t
客室数/123室 乗客定員/245名 乗組員数/193名
●ボナン
www.ponant.jp/



1.他の客船では近づけない極地にたどり着ける砕氷力 **2.**フレンチの巨匠アラン・デュカスシェフが監修するメインダイニング **3.**展望ラウンジから、氷のパノラマが織りなす迫力を感じて **4.**極寒の環境でも快適に過ごせる、暖房付きのベンチや屋外温水プールなども設置されたオープンデッキ

marie claire
TRAVEL

「オーシャン・ウェルネス」にも注力。開閉式のガラス天井を備えた「ザ・コンサバトリー・プール&バー」

Small Luxury Cruise



MITSUI OCEAN SAKURA

三井オーシャンサクラ

日本発着で各地の魅力を再発見、和のくつろぎに包まれて

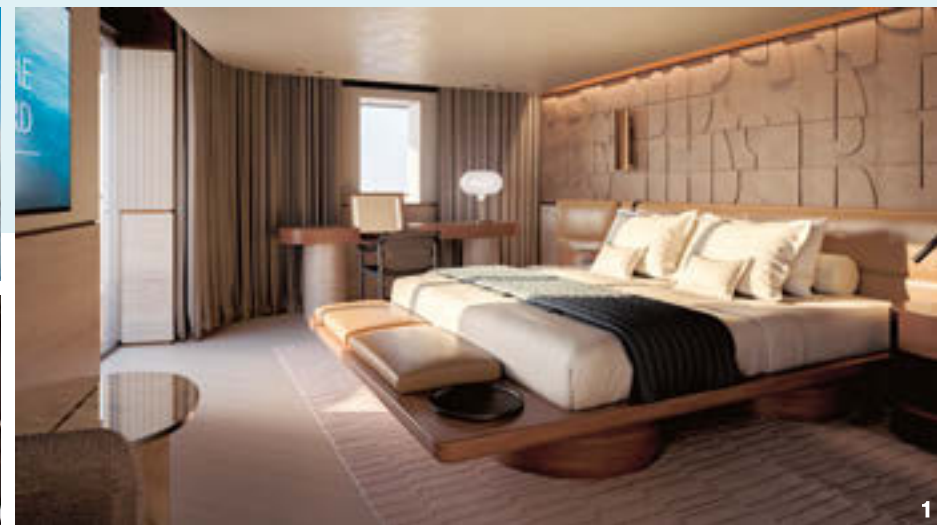
商 船三井クルーズが誇るクルーズブランド「MITSUI OCEAN CRUISES（以下、三井オーシャンクルーズ）」の新客船が、今年9月に初就航した「三井オーシャンサクラ」だ。桜の花にちなんだ名前通り、日本の美意識を添えた船旅を提供する。2024年12月に就航した「MITSUI OCEAN FUJI（以下、三井オーシャンフジ）」同様に、日本発着で言語面での心配がなく、日本のクルーズ会社ならではの、きめ細かな和のおもてなしが特徴。

三井オーシャンフジが海外の寄港も含めた長・中距離を運航するのに対し、三井オーシャンサクラは日本国内の港に寄港する短期のクルーズが中心。日本の小さな港や屋久島、利尻・礼文、小笠原諸島などの島々への寄港のほか、伝統行事や祭りを航路に積極的に取り入れ、青森ねぶた祭や秋田竿燈、花火大会などのタイミングに合わせたテーマクルーズに力を入れている。さらに、プールのそばで服を着たまま楽しめる足湯や、三國清三シェ

フ監修のスペシャルレストラン「北斎ファインダイニング」、本格的な寿司を提供する「寿司バー・潮彩」など和のもてなしも魅力だ。
※北斎ファインダイニングと寿司バー・潮彩は別料金

—
MITSUI OCEAN SAKURA
就航/2026 日本 総トン数/34,138t
客室数/229室 乗客定員/458名
●商船三井
tel: 0120-791-211
www.mitsuioceancruises.com

1.「スパ&ウェルネス木霊(こだま)」のハーモニーラウンジ **2.**「寿司バー・潮彩」 **3.**部屋にフィットネスアメニティも完備。スパ&ウェルネス木霊へ直結のベントハウススパスイート **4.**純白の船体は、現代的な細身のシルエット
※画像はイメージです



EXPLORA III

エクスプローラ III

今年8月に初就航、エクスクルーシブな美食にも注目

世 界最大級の海運・クルーズ企業 MSCグループが手掛けるラグジュアリー・ライフスタイルブランドが生み出した「EXPLORA III」は、今年8月に初就航。大都市だけでなく、大型客船が寄港しにくい秘境やユニークな港も訪れるのが特徴で、北極圏やグリーンランド、アイスランドの小さな港を訪れ、海からだからこそ楽しめるフィヨルドの絶景を、暖かで快適な部屋から満喫することができる。さらに、EXPLORA IIIでは、スパやフィットネス施設の拡張に加え、美食も魅力のひとつ。「ザ・シェフズ・テーブル by Explora Journeys」のようなプライベートダイニングで、シェフが目の前で1組だけのた

めに料理を作り、直接おもてなしをする体験や、ワイン愛好家のサンクチュアリとして新設された「ザ・セラー by Explora Journeys」などが加わり、さらに昇華された美食体験にも注目が集まっている。

—
EXPLORA III
就航/2026 総トン数/72,810t
客室数/461室 ゲスト1,25名に対しホスト1名
●エクスプローラ・ジャーニー
explorajourneys.com/jp/ja

1.世界的著名デザイナー、パトリシア・ウルキオラ氏が手がける「オーナーズ・レジデンス」も併設。邸宅のような雰囲気を感じ出す **2.**ダークネイビーのスタイリッシュな外観 **3.**「EXPLORA III」の食体験の中心となる「ザ・セラー by Explora Journeys」 **4.**シグネチャーダイニング「アンソロジー」。地域食材を使用した美食を楽しむ



ジェンダーの垣根を越えたアパレル中心のフロア
スタッフとの対話や仕立てを通して「装いを育てる」アトリエ機能を
備えた4階。(上)日本独自のものづくりに着目したコレクション
“PURE CRAFT”など、ワンランク上のアパレルブランドをライン
ナップ。ショールカラーのコートは、ダブルフェイス仕立て。光沢のある
梳毛ウールと柔らかな紡毛ウールを掛け合わせることで濃淡をつけ、
ワントーンでも奥行きのある質感に仕上っている (下)イタリア発
のブランド「サスフィー」や「ナナボース」、オランダのブランド「ロー
エ」、日本の「山内」など、新たな取り扱いブランドも多数登場



日本の美意識を取り入れた スタイルスクエアが誕生

7月18日にリニューアルオープンした、「和光」3階と4階に位置するスタイルスクエア。「光と時」をコンセプトにした空間は、いずれの階にも柔らかな自然光が降り注ぎ、明るく開放的。訪れる人が自分らしく自由な感性で商品を選び取れるようにとの思いから、カテゴリーやジェンダーの壁を取り払った展示が施されている。なかでもバッグを中心とした3階は、カテゴリーを横断したスタイル提案を行うギャラリー機能を備えたフロア。上質を極めたオリジナルバッグ“SUIHA”や“MANACO”はもちろんのこと、「和光」だけで手に入るセレクトブランドも用意。その他、新たに取り扱いがスタートしたアクセサリブランドもお目見え。また4階は、オリジナルの“PURE CRAFT”や“WAKO NEW CLOSET”をはじめとするアパレルブランドやオーダーメイドウェア、アイウェアをラインナップ。アイテムの背景にあるストーリーまでをも感じられる心地よい空間なら、時代を超えて大切にできる特別な逸品に出会えるはずだ。



3rd Floor

ゆったりとした時間が流れるギャラリーのような空間
自然光が降り注ぐ回廊のようなアーチが印象的な3階には、バッグを中心に、スモールレザーグッズ、アクセサリ、ハンカチーフが並ぶ。
(上)ゆとりのあるスペースで“SUIHA”をまるでアートのように展示
(中)オリジナルの“MANACO”から登場したジュエリーシリーズは、
ミニマル&モードなフォルムが特徴。印象的な円形のフォルムを重ね、
計算し尽くされたデザインに仕上っている (下)広々とした空間には
国内では、「和光」だけが常設販売を行うフランス王室ゆかりのバ
ッグ「ジョセフ・デュクロ」やパリ発の「リュニフォーム」などの注目ブ
ランドも



「瑞々しい波」から着想を得た、
タイムレスな美が宿るコレクション

「和光」のアイデンティティが詰まったリュクスなコレクション“SUIHA(瑞波)”。「良い兆しを運ぶ波」を意味するモチーフをポイントにしたバッグには、使い込むほどに味わいがでる柔らかなイタリアンレザーを採用。縫製やコバなど、細部にまで熟練の職人の手仕事息づいている。モダン&シックなデザインのアクセントになっているのは、ゴールドカラーのクラスプ。2つの波が交わり合う日本の伝統的な紋様「立涌」にインスパイアされた繊細な刻印には、幸運のメッセージが込められている。バッグ“SUIHA”
(右)高い収納力を誇る縦長のトートバッグ。[W27×H35×D13cm] ¥346,500 (中)こっくりとした胡桃色のレザーが印象的なミニサイズのトートバッグ。[W22×H15×D10cm] ¥390,500 (左)ミディアムサイズには、A4書類が収納可能。[W30×H20×D15cm] ¥440,000(すべてSUIHA／和光)

WAKO

「光と時」がテーマの心地よい空間へ 新しい「和光」で出会う洗練のバッグ

7月に待望のリニューアルを遂げた「和光」のスタイルスクエア。
上質を極めたオリジナルバッグ“SUIHA”をはじめ、
優雅な時間が流れる空間で手に入る厳選されたアイテムと
「和光」ならではのこだわりを紹介。

photo: SHINMEI(SEPT) (P38)
realization: Asaka Ikeda



未知の場所に出会う 本と写真集で心の旅へ

読書の秋。旅情を誘う本や写真集に触れて、束の間の旅を味わうのはいかがだろうか。
日常から少し離れ、物の見方が変わる時間。町の書店が選ぶ、各地の物語や風景を訪ねて。

text: Saya Tsukahara



『FOTOGRAFÍA』

ヴィム・ヴェンダース
Coleccion Imagen 5,500円(古書／税込)

ドイツの映画監督ヴィム・ヴェンダースがアメリカ、スペインを撮影。ヴィム・ヴェンダースは初期作品の『都会のアリス』『まわり道』『さすらい』のほか、代表作『パリ、テキサス』など数々のロードムービーを撮影してきた。この写真集では、人影のない道路、道沿いにふいに現れる看板、広大な荒野、そびえる都市の建造物など、移動しながら目に映る景色を切り取っていく、目的地を持たず、見知らぬ地を漂うような旅を追体験したい。



『TAKEO KIKUCHI COLLECTION AUTUMN AND WINTER '83-'84』

植田正治
ART INTER-RELATIONS 11,000円(古書／税込)

ファッションデザイナーの菊池武夫が「TAKEO KIKUCHI」を立ち上げた際のファーストコレクションを、植田正治が撮影。1983年に制作されたカタログが、2003年に写真集として復刻された。舞台は植田正治が撮り続けた場所、鳥取砂丘。砂と空が織りなす空間をスタジオに、緻密に演出されたモノクロ写真だ。幻想的で異世界に足を踏み入れたような感覚に。鳥取砂丘と植田正治写真美術館(鳥取県西伯郡伯耆町)を訪ねたくなる。

『Photobook』Select

写真集専門書店
book obscure ブックオブスキュラ
〒181-0001
東京都三鷹市井の頭4-21-5 #103
tel: 0422-26-9707
営業時間: 12:00～19:00
定休日: 火・水曜日

『虹』

野口里佳
YAMADA Book Publishing 6,050円(税込)

鳥取砂丘を撮りに出かけた野口里佳が、到着してすぐに見つけた赤と白のバラシュート。ふわりと宙に浮いて地上に着地するまでのほんのひととき、まるで虹のように消えてしまう姿を写し取った一冊。バラシュートの浮遊感を表現するため、柔らかな紙に印刷され、ページをめくると繊細な作品世界に自然と入り込んでいく。植田正治作品とあわせて見ることで、鳥取砂丘のさまざまな表情、写真家の視点の違いを楽しめるだろう。



『SWISS』

長島有里枝
赤々舎 5,500円(税込)

スイスのアーティストレジデンスに滞在した際の写真と日記。写されているのは、日々の暮らしの中で撮影した草花、部屋の光景、息子の姿。祖母が写した花の写真にインスパイアされた作品で、今は亡き祖母と花の写真を通して向き合う。時折、航空券やメモ書きなども挟み込まれ、スイスの空気と旅の記憶が綴られているかのようだ。布の表紙には版によってさまざまな色のバリエーションがあり、プレゼントにもおすすめ。



『PUGLIA. TRA ALBE E TRAMONTI』

ルイジ・ギッリ
MACK 16,500円(税込)

イタリアのカラー写真界のバイオニア、ルイジ・ギッリ。ブーツに例えられるイタリア国土の「かかととピンヒール」に位置するプーリア州を撮影している。白壁と石畳が続く町並み、静かな室内、移動遊園地、日が沈んだ後の町の灯り、この地で暮らす子どもたち……。ルイジ・ギッリは1982年に初めてプーリア州を訪れてから、その後10年間、毎年足を運んだという。カラーフィルムの温かな色合いが南イタリアの光を感じさせ、町を散歩したい気持ちに。



『しらすの駅舎』

日本建築写真家協会編
鹿島出版会 3,300円(税込)

鉄道草創期から昭和中期に建てられた全国の歴史ある駅舎を収録。日本建築写真家協会の有志が撮影した289駅から選りすぐりの写真が掲載されている。四季折々の写真で構成され、日本の原風景を訪ね歩くような一冊。駅を行き交う人たちの日々の営みを想像させ、郷愁を呼び起こす。老朽化のために現在は取り壊されてしまった駅舎もあり、貴重な記録でもある。写真は列島を北から南下するように並べられ、鉄道で日本中を旅する気分。

『ハグとナガラ』

原田マハ
文春文庫 660円(文庫／税込)

自身も旅好きで知られる原田マハによる短編小説集。大学時代からの友人同士であるハグとナガラが体験する6つの旅物語だ。恋も仕事も失い、絶望していたハグのもとに、突然「一緒に旅に出よう」とナガラからメールが届く。以来、2人は季節ごとに旅へ。30代、40代、50代と年齢を重ね、日常の変化にもがきながらしなやかに生きる。旅と友情を通して人生の喜怒哀楽を味わい、元気をもらえる一冊。読み終えると友達と旅に出たくなる。

『旅に出たくなる地図 世界』

帝国書院 2,860円(税込)

全大陸を網羅した世界地図。地図の中に遺跡などのスポットのほか、名産品や名物料理、歴史、文化などが書き込まれている。映画のロケ地などの豆知識も記されているのがユニークだ。開いただけで旅気分を味わえ、過去に訪れた場所を思い出しながら眺めるのも楽しい。20版となる最新版では、クルーズ船の旅「世界一周」「地中海」「バルト海」「アジア」「カリブ海」を地図と写真で紹介している。

『Book』Select

旅と暮らしの本屋 アンダンテ

〒112-0011
東京都文京区千石4-39-17
tel: 03-4329-2999
営業時間: 11:00～20:00
(土日祝日は19:00閉店)
定休日: 月曜日
(別途夏季・冬季休業あり)



『ゴッホ 旅とレシピ』

林 綾野
講談社 1,760円(税込)

ゴッホは、37年の短い生涯で旅や移住を重ねた。オランダ、イギリス、ベルギー、パリ、南フランス、オーヴェール＝シュール＝オワーズ。その足跡をたどりながら、まるで一緒に旅をしているような気分になれる一冊。作品とともに、滞在した土地の風景や食材の写真、ゴッホが食べたであろう料理の再現レシピも紹介される。食を通してゴッホの人となりを想像し、身近に感じられるのが新鮮だ。



『君はなぜ北極を歩かないのか』

荻田泰永
産業編集センター 1,760円(税込)

北極冒険家である荻田泰永が2019年に若者12名を引き連れ、カナダ北極圏のバフィン島で実施した「北極圏を目指す冒険ウォーク」。大学生、社会人、フリーターなど、アウトドアの初心者だった参加者が北極圏ルート600kmの踏破に挑み、極限状態の中で自身と対峙する姿が生々しく描かれる。若者たちの約1か月間の成長物語と冒険家の思索を書き下ろした、臨場感ある極地紀行。



『たびたび』

さくらももこ
新潮社 1,870円(税込)

さくらももこが編集長となり、「ひとり雑誌」として企画や取材・執筆、漫画、イラストなどすべてを手がけた伝説の雑誌「富士山」。そこに寄稿したエッセイの中から単行本未収録の11篇をセレクトしている。ミッフィーの作者・ブルーナに会いに行ったユトレヒト、夏の富良野、大好きなバリ島……。さくらももこワールドを通して旅の魅力を感じ、自分も旅に出たくなる。作家・朝井リョウさんによる特別寄稿も収録。

MESSIKA

ボツワナの自然とメゾンの技術の美の共鳴 「オカバンゴ・ブルー」の 唯一無二の輝き

独創性と卓越性に富み、現代ハイジュエリーのメゾンとして
確かな地位を確立してきた「メシカ」。ボツワナの自然が生み出した
希少な「オカバンゴ・ブルー」を、革新的な「メシカ」の
クリエーションによって、類を見ないハイジュエリーへ昇華させた。

photos: ©MESSIKA
text: Naomi Tomisawa

創業者兼アーティストリックディレクターのヴァレリー・メシカによって、2005年にパリで設立されたハイジュエリーメゾン「メシカ」。国際的に著名なダイヤモンド商の父のもとで育まれた確かな知識と情熱、規格にとらわれないクリエーションは、現代ハイジュエリーにおいて世界的な評価を得ている。

メゾン創業20周年を祝して発表された「テール ダンスタン」から続くコレクション、「テール・ド・コントラスト」。そのキーピースとなるのが「オカバンゴ・ブルー」のネックレスだ。ボツワナ史上最大かつ最も希少な41.11カラットのブルーダイヤモンドの原石を、「メシカ」の技術によって研磨。20.46カラットの「オカバンゴ・ブルー」へと生まれ変わった。透明度VVS1を誇るその石は、神秘的なブルーと細かなグレーが共存する、ファンシー・ディープ・ブルーに分類される。その色彩と輝きは、まさにボツワナの国宝である。

ヴァレリー・メシカは「オカバンゴ・ブルー」の価値と美しさを讃え、メゾンの技術と創造性を注ぎ込んでこのネックレスを誕生させた。リヴィエールとメダリオンという伝統的なモチーフを現代的に昇華したネックレスは、第二の肌のように滑らかなダイヤモンドが描く軌跡によって、「オカバンゴ・ブルー」へと視線を導く。

フランスの傑出したサヴォアフェールとアフリカの壮大な自然が創造した奇跡ともいえるダイヤモンドの出会いが、美しきハイジュエリーの誕生だけではなく、「メシカ」とボツワナの深い絆の物語でもある。



500石ものダイヤモンドを配したリヴィエールから、わずかに高く位置するセンターストーン。その緻密に計算された構成が「オカバンゴ・ブルー」の輝きを最大限に引き立てる。ネックレス[参考商品]（メシカ／メシカ ジャパン）



2018年にオラバ鉱山で発掘されたボツワナ史上最大・最希少なブルーダイヤモンド。何十億年もの時をかけて育まれた自然の結晶は、国の至宝である。ボツワナにおいて天然ダイヤモンドは、教育、医療、インフラ整備など、国民の暮らしを支える分野の資金源であり、「オカバンゴ・ブルー」はボツワナ政府から「メシカ」へ託された価値と信頼を象徴する存在である

次号予告

marie claire
29th October, 2026

10月29日刊行です

shop list

掲載商品のお問い合わせ先

ア アダム リベス tel: 03-6820-5610
ヴァン クリーフ&アーベル ル デスク tel: 0120-10-1906
エビステムコル tel: 0120-480-610
エルメスジャパン tel: 03-3569-3300
オフィシヌ・ユニヴェルセル・ビュリー/Buly Japan tel: 0120-09-1803
カ カルティエ カスタマー サービスセンター tel: 0120-1847-00
グッチ クライアントサービス tel: 0120-99-2177
グッチ ビューティ/コティジャパン tel: 0120-878-653
グرافダイヤモンドジャパン クライアントサービス tel: 0120-667-667
クラランス カスタマーケア tel: 050-3198-9361

サ クリスチャン ディオール tel: 0120-02-1947
クレド・ボー ボーテお客様窓口 tel: 0120-86-1982
コスメデコルテ tel: 0120-763-325
シスレージャパン web: www.sisley-paris.com
ジバンシィ ジャパン tel: 0120-218-025
ジャネル カスタマー ケア センター tel: 0120-525-519
ショメ tel: 03-5635-7057
ジョルジオ アルマーニ ジャパン tel: 03-6274-7070
スキヤパレリ web: schiaparelli.com
ステラ マッカートニー ジャパン tel: 03-6427-7013
セリーヌ ジャパン tel: 03-5414-1401

タ TASAKI tel: 0120-111-446
ティファニー・アンド・カンパニー ジャパン・インク tel: 0120-488-712
トム フォード ジャパン tel: 03-5466-1123
ドルチェ&ガッバーナ ジャパン tel: 03-6833-6099
ハ バルファン・クリスチャン・ディオール tel: 03-3239-0618
バレンシアガ クライアントサービス tel: 0120-992-136
フェンディ ジャパン tel: 0120-001-829
プシュロン クライアントサービス tel: 0120-230-441
プッチェッティ tel: 03-4461-8330
ブラダ クライアントサービス tel: 0120-45-1913
ブラダ ビューティ tel: 0120-950-992

ブルーベル・ジャパン 香水・化粧品ブランド・マネジメント事業部 tel: 0120-005-130
フレッド カスタマーサービス tel: 03-5635-7040
ポッテガ・ヴェネタ ジャパン tel: 0120-60-1966
マ ミキモト カスタマーズ・サービスセンター tel: 0120-868254
ミウミュウ クライアントサービス tel: 0120-45-1993
メシカ ジャパン tel: 03-5946-8299
メナード お客様相談室 tel: 0120-164601
ラ ラプリエール tel: 0120-223-887
ランコム お客様相談室 tel: 0120-483-666
ルイ・ヴィトン クライアントサービス tel: 0120-00-1854



marieclairejapon.com

Welcome to
Our Site!



「marie claire」
LINE公式アカウントはこちら

日本各地の美食を訪ねて

浜田岳文のガストロノミー ジャーニー

Vol. ③



Takefumi Hamada
1974年兵庫県生まれ。
米国・イェール大学在学中から
食べ歩きを始め、世界約128カ国・
地域を踏破。世界No.1レストランレビュー。
「The World's 50 Best Restaurants」の
日本の評議委員長も務める。著書に
『美食の教養』（ダイヤモンド社）。

● Foodie note



- 1.地元野菜を小さなサラダ仕立てに
- 2.希少な鰻を焼きおにぎりとお出汁で
- 3.いすみが誇る漁場「器械根」の伊勢海老
- 4.広々としたリゾートで愛犬と泊まることもできる
- 5.近隣にあるマザー牧場で育てられたホゲット
- 6.ミントのムースとミントアイスクリーム
- 7.木村シェフによるデモンストレーション



房

総半島のいすみ市は、都心から車で90分ほどのところにあります。海が近く、温暖で過ごしやすいくことで知られ、近年は移住先として人気を集めているそうです。今回ご紹介するのは、いすみ市の宿泊施設「五氣里」にあるレストラン。家族連れがくつろげるリゾートで、天然温泉やサウナ、ドッグランもあります。シェフの木村 藍さんは、いすみ市のご出身。まだ日本では数少ない女性シェフです。金融業界を経験された後、20代後半から料理の世界に転身されました。東京・池袋でフレンチレストラン「シュヴァルドゥ・ヒョータン」を開業していた頃から、休日は夜行バスでいすみ市に通って、生産者を訪ねていたそうです。五氣里さんとご縁があって2024年にこちらのシェフとなり、いすみ市へ拠点を移されました。食を通して地域の魅力を伝える「いすみ大使」にもなられています。

エネルギーで社交的な方で、現在は30軒ほどの生産者さんと交流しているそうです。農作業をしたり、猟師さんと山を歩いたり、伊勢海老漁を朝5時からお

手伝いしたり……。日々一緒に取り組みながら、なかなか手に入らない食材も提供してもらい、料理に生かしている。海の幸、山の幸はもちろん、いすみの米、勝浦の塩など、いすみ市を中心に千葉県の食材を使用しています。

この地域で特徴的だと感じたのは、たとえば農家や猟師など、生産者同士の関わりが深いことです。農家の方が漁を手伝いに行って魚を分けてもらったり、あるいはその逆だったり助け合いが当たり前に行われています。山と海が近く、一つのコミュニティとして成立しているのがユニークだと思います。また、移住者を受け入れるオープンな土地柄で、生産者のなかにはこの地に惚れ込んで移り住み、こだわりの製法で農業に取り組む方など、もいらっしやるようです。お店に伺った日、食材を提供しているチーズ工房「千」と蒸溜所の「mitsuya」を訪ねましたが、どちらも移住者の方々でした。

そうした多様な生産者さんからいただいた食材をふんだんに盛り込んで、フレンチを基本とした料理を展開しています。

肩肘張らずに楽しめて、食文化に興味を持つきっかけに—— 浜田岳文

ITSUKIRI

五氣里 〔千葉県〕

地産地消にこだわり、地域の食材を独自に昇華させるガストロノミーが全国各地にある。今回訪れたのは、千葉県にあるオーベルジュ「五氣里」。里山、里海の豊かな食材を存分に味わえるお店だ。

photos: Takefumi Hamada / interview & text: Saya Tsukahara

彩りが美しい地元野菜のサラダ仕立て、ダルマイカに大麦を詰めてパプリカとトマトのソースを合わせた一皿、マルテーズソースとアメリカヌソースの泡を合わせた伊勢海老のソテーなど。コースの最初には屋外のスペースでデモンストレーションがあり、カツオを炙ってたたきにするところを披露してくれました。そうしたお客さんを楽しませるエンターテインメント性も意識されていますね。

リゾート施設ですから、子どもを含めて幅広い層のお客さんがいます。なかには初めてジビエを食べる方もいて、その魅力に気づく機会になるかもしれません。肩肘張らずに楽しめて、食文化に興味を持つきっかけになる場所だと思います。お皿を通じて生産者や地域のことを考える、文化体験としてのガストロノミー入門といえるでしょう。

「五氣里」
千葉県いすみ市下布施2891
tel: 0470-60-6090
https://itsukiri.com/



千葉の海でとれた黄金アジにドライトマトを詰め、キュウリのソースを添えて